

消 防 年 報

平 成 1 8 年 版

佐 渡 市 消 防 本 部

(平 成 1 9 年 発 行)

消 防 年 報

郵便番号 ９５２－１３１１

編集発行 新潟県佐渡市八幡１８８１番地壹
佐渡市消防本部

TEL ０２５９－５２－３９４１

FAX ０２５９－５２－５６５１

E-meil:sf-fire119@city.sado.niigata.jp

目 次

1. は し が き

2. 佐渡市消防本部の沿革	佐渡市の位置及び地勢	1
	管 内 位 置 図	2
	歴代消防長・署長	3
	佐渡市消防の沿革	5

1. 総務編

1－1	佐渡市消防本部機構図	14
1－2	佐渡市消防本部事務分掌	15
1－3	消防庁舎の所在地	18
1－4	消防職員階級別配置状況	23
1－5	消防職員階級別年齢調	23
1－6	消防職員在職年数調	24
1－7	消防職員の研修・教育等実施状況	24
1－8	消防職員資格免許等一覧表	25
1－9	平成18年度 主要事業	26
1－10	年度別一般会計予算・決算	30

1－11	消防費の人口・世帯当たりの歳出額・・・・・・・・・・	30
1－12	消防関係表彰状況・・・・・・・・・・	31
1－13	消防相互応援協定・・・・・・・・・・	32

2. 警防編

2－1	消防通信施設状況・・・・・・・・・・	33
2－2	無線電話機設置状況・・・・・・・・・・	33
2－3	消防水利の状況・・・・・・・・・・	34
2－4	消防用車両等の配置状況・・・・・・・・・・	35
2－5	消防用車両等の状況・・・・・・・・・・	36
2－6	特殊機械器具等現有状況・・・・・・・・・・	41
2－7	気象状況	
(1)	気温・・・・・・・・・・	45
(2)	湿度・・・・・・・・・・	45
(3)	雨量・・・・・・・・・・	46
(4)	風向・風速・・・・・・・・・・	46
(5)	降雪・積雪・・・・・・・・・・	47
(6)	警報・注意報発表状況・・・・・・・・・・	47

3. 火災編

3－1	平成18年 月別火災発生状況・・・・・・・・・・	49
3－2	年別・地区別・種別火災発生状況・・・・・・・・	50
3－3	年別火災原因調・・・・・・・・・・	52
3－4	平成18年火災発生時刻と覚知方法・・・・・・・・	53
3－5	平成18年消防機関の出動状況・・・・・・・・・・	53
3－6	過去の地区別火災発生状況・・・・・・・・・・	54
3－7	過去の曜日別火災発生状況・・・・・・・・・・	53
3－8	過去における主な火災記録・・・・・・・・・・	55

4. 救急・救助編

4－1	年別・事故別救急出場状況・・・・・・・・・・	57
4－2	地区・事故別救急出場状況・・・・・・・・・・	58
4－3	時刻・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・	59
4－4	月・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・	60
4－5	曜日・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・	61
4－6	症状別搬送人員調・・・・・・・・・・	61
4－7	医療機関別搬送人員調・・・・・・・・・・	62
4－8	年齢・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・	63

4－9	救急隊員の行った応急処置状況調・・・・・・・・・・	63
4－10	現場到着所要時間別出場件数調・・・・・・・・・・	64
4－11	普通救命講習等実施状況・・・・・・・・・・	64
4－12	救助活動状況・・・・・・・・・・	65
4－13	消防救助技術大会出場状況・・・・・・・・・・	66

5. 予防・危険物編

5－1	防火対象物過去5年間の推移・・・・・・・・・・	67
5－2	業態別中高層防火対象物数・・・・・・・・・・	68
5－3	防火対象物署別一覧表・・・・・・・・・・	69
5－4	防火対象物別消防用設備等設置状況・・・・・・・・・・	70
5－5	防火管理者を必要とする防火対象物及び 選任状況（甲種・乙種防火対象物）・・・・・・・・・・	71
5－6	火災予防条例による届出状況・・・・・・・・・・	72]
5－7	建築確認申請同意事務処理状況・・・・・・・・・・	73
5－8	建築確認申請月別処理状況・・・・・・・・・・	73
5－9	防火対象物にかかる暫定適マーク制度の実施状況・・	73
5－10	火災予防査察実施状況・・・・・・・・・・	74
5－11	予防関係事務処理状況・・・・・・・・・・	75

5－12	事業所別消防訓練指導状況・・・・・・・・・・	76
5－13	広報活動状況・・・・・・・・・・	77
5－14	地区別危険物施設の状況・・・・・・・・・・	78
5－15	危険物施設の推移・・・・・・・・・・	79
5－16	製造所等の地区別危険物指定数量倍数・・・・・・・・	80
5－17	月別危険物施設事務処理状況・・・・・・・・・・	81
5－18	危険物規制事務手数料・・・・・・・・・・	82
5－19	危険物製造所等の立入検査状況・・・・・・・・・・	83
5－20	危険物製造所等の申請件数・・・・・・・・・・	84

6. 消防団編

6－1	佐渡市消防団組織図・・・・・・・・・・	85
	（1）中央消防団・・・・・・・・・・	86
	（2）両津消防団・・・・・・・・・・	87
	（3）相川消防団・・・・・・・・・・	88
	（4）南佐渡消防団・・・・・・・・・・	89
6－2	歴代消防団長・副団長・・・・・・・・・・	90
6－3	消防団員職業別人員調・・・・・・・・・・	93
6－4	消防団員勤続年数調・・・・・・・・・・	93

6－5	消防団員年齢別人員調・・・・・・・・・・・・・・・・	93
6－6	消防団員報酬・費用弁償・機械器具管理委託費・・・	94
6－7	消防団員の消防学校教育受講状況・・・・・・・・・・	94
6－8	消防団員の退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
6－9	消防団員の新任状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
6－10	平成18年度消防団主要事業・・・・・・・・・・・・・・	96

は し が き

この年報は、佐渡市消防本部の消防現勢と、平成18年の業務実績を収録し、消防行政の合理的な運営と消防力の充実強化に資することを目的として作成しました。

また、管内における災害実態や消防及び救急活動の現状など広く一般に紹介し、消防行政に対する理解と協力をお願いするとともに住民の防火思想の高揚をはかるものであります。

平成19年9月

佐渡市消防本部

佐渡市の位置及び地勢

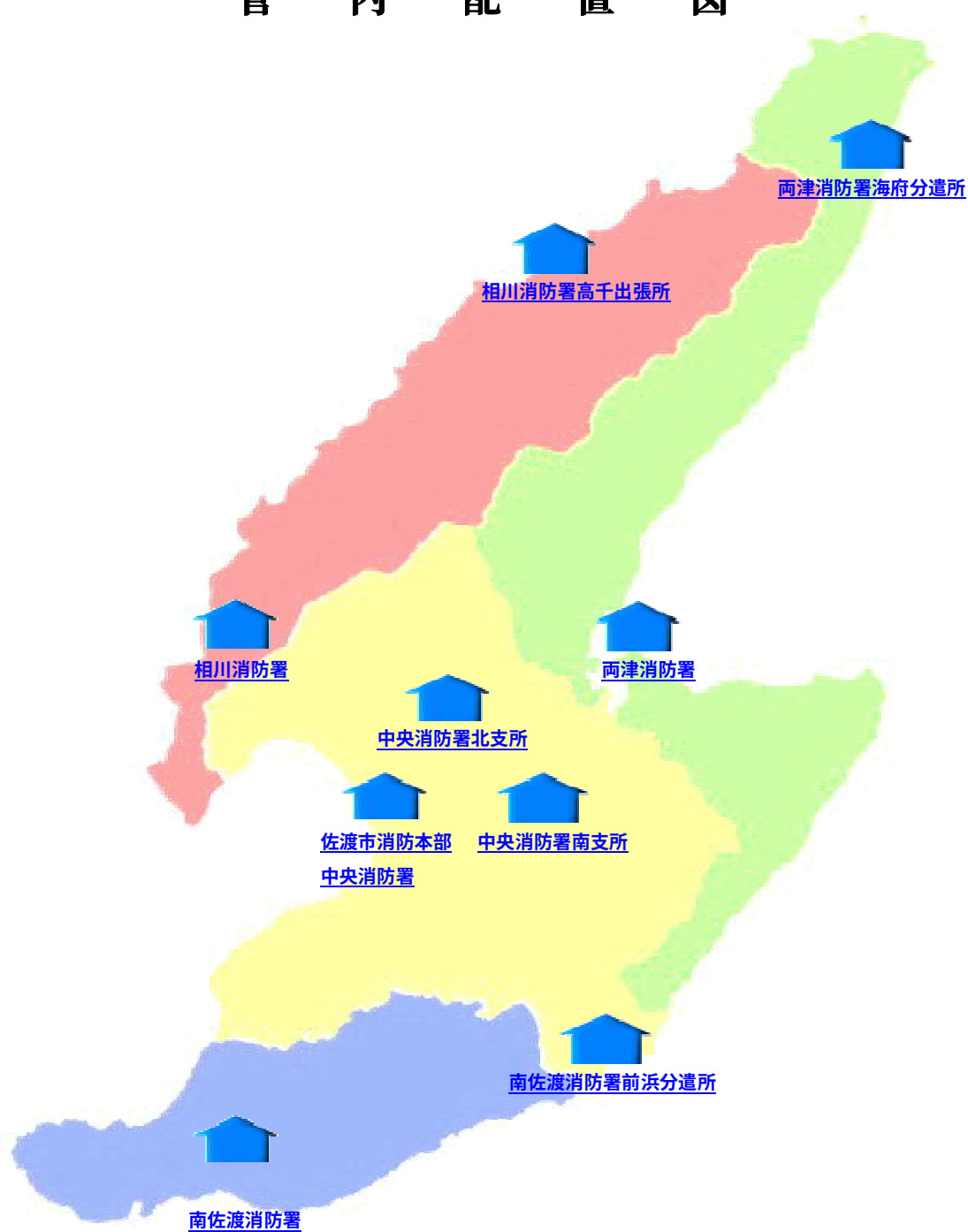
本市は、日本海の中央に位置する佐渡島であり、面積855,11km²、周囲280,4kmに及ぶ海岸線は変化に富み、美しい景観を形成している。島の中央部を国府川が流れ、この流域に開けた穀倉地帯国中平野を挟んで、北に大佐渡山地、南に小佐渡丘陵を擁し、島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、近年人工繁殖に成功した国際保護鳥トキが生息していたように、豊で美しい自然環境に恵まれている。

気候は海洋性で、四季の変化に富み、夏は高温多湿であるが、冬は日本海を北上する対馬暖流の影響を受け雪も少なく、温暖な特性があり、新潟本土と比べ気温の平年値13.6℃と比較的高く、年間降水量も1,600～1,700mmで少ない。

佐渡市の人口は、平成16年3月1日発足時70,015人、平成18年4月1日現在67,917人で少子高齢化・過疎化が進んでいる。

昭和28年の町村合併促進法により、1市7町2村から、21世紀を迎え地方分権時代の到来の中、平成16年3月1日に1島1市の市町村合併が行われ『佐渡市』が誕生し現在に至っています。

管内配置図



佐渡市消防本部エンブレム



佐渡市救助隊エンブレム

歴 代 消 防 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	加 藤 侑 作	自 平 成 16 年 3 月 1 日 至 平 成 18 年 3 月 31 日	
二代	渡 辺 与 四 夫	自 平 成 18 年 4 月 1 日	

歴 代 中 央 消 防 署 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	中 川 茂	自 平 成 16 年 3 月 1 日 至 平 成 17 年 3 月 31 日	
二代	加 藤 貴 一	自 平 成 17 年 4 月 1 日	

歴 代 両 津 消 防 署 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	加 門 俊 行	自 平 成 16 年 3 月 1 日 至 平 成 18 年 3 月 31 日	
二代	飯 田 忠 一	自 平 成 18 年 4 月 1 日	

歴 代 相 川 消 防 署 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	服 部 恵 男	自 平 成 16 年 3 月 1 日 至 平 成 18 年 3 月 31 日	
二代	山 本 一 夫	自 平 成 18 年 4 月 1 日	

歴 代 南 佐 渡 消 防 署 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	磯 部 敏 晴	自 平 成 16 年 3 月 1 日 至 平 成 18 年 3 月 31 日	
二代	加 門 俊 行	自 平 成 18 年 4 月 1 日	

佐渡市消防の沿革

平成 16 年

- 3 月 1 日 島内 10 ヶ市町村合併により、佐渡市消防本部発足
1 本部・4 署・2 支所・1 出張所 署員 204 人
消防本部・中央消防署 52 人（本部専任 2 人・主任以上本部兼任）
両津消防署 38 人
相川消防署 26 人
南佐渡消防署 40 人
中央消防署北支所 18 人
中央消防署南支所 18 人
相川消防署高千出張所 12 人
- 4 月 消防職員 7 人採用
- 9 月 緊急広報連絡車購入 消防本部中央署に配備
防火水槽蓋附設工事実施
（四日町・静平・畑野・八幡新町地区）
- 11 月 40 m³耐震性貯水槽設置
（高千・小野見・上矢馳・大和・三宮・大橋・旭地内）
- 12 月 40 m³耐震性貯水槽設置
（加茂歌代・黒姫地内）
小型動力ポンプ B－3 級配備
（両津消防団 岩首分団第 4 部・吉井分団第 5 部・河崎第 2 分団第 3 部）
小型動力ポンプ軽積載車配備
（中央消防団 第 1 分団第 5 部・第 2 分団第 4 部・第 4 分団第 3 部）

平成 17 年

- 1 月 40 m³耐震性貯水槽設置
（吉井本郷地内）
- 2 月 小型動力ポンプ付水槽車を相川消防署に配備
- 4 月 小型動力ポンプ B－3 級配備
（両津消防団加茂第 3 分団第 1 部・河崎第 1 分団第 5 部・河崎第 2 分団第 3 部）
- 6 月 40 m³耐震性貯水槽設置
（椿尾地内）

- 7 月 救助工作車Ⅱ型購入 両津消防署に配備
- 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(鷺崎地内、泉地内、貝塚地内、丸山地内、赤泊地内)
- 8 月 消防ポンプ自動車 CD-1 配備
(中央消防団第 1 分団第 1 部・第 4 分団第 1 部)
- 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(吾潟藤巻地内、吾潟田ノ浦地内、羽茂大橋地内、八幡町地内)
- 9 月 消防防災用自動車配備
(中央消防団第 1 分団第 2 部・第 2 分団第 5 部・第 6 分団第 5 部)
- 消防緊急広報連絡車購入 消防本部中央署に配備
- 10 月 高規格救急車購入 両津消防署に配備
- 平成 1 8 年
- 2 月 消防ポンプ付水槽車購入 消防本部中央署に配備
- 3 月 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(市野沢地内、新穂大野地内、相川坂下町、羽茂上山田)
- 6 0 m³耐震性貯水槽設置
(千種地内)
- 6 月 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(達者地内)
- 10 月 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(東大通地内、長石地内、上横山地内)
- 11 月 小型動力ポンプ付積載車購入 消防本部中央署、海府分遣所、前浜分遣所に配備
小型動力ポンプ付積載車配備
(中央消防団第 4 分団第 2 部、中央消防団第 6 分団第 6 部、相川消防団第 5 分団第 2 部)
- 12 月 救急自動車 2 B 型購入 海府分遣所に配備
小型動力ポンプ付水槽車購入 海府分遣所、前浜分遣所に配備)
- 平成 1 9 年
- 1 月 4 0 m³耐震性貯水槽設置
(上横山地内)

合併前の各消防本部の沿革

佐渡消防本部

昭和46年4月1日

佐渡消防事務組合設立（佐和田町・金井町・畑野町・真野町・新穂村）

消防本部・消防署発足 12人で業務開始

6月 消防職員1名採用（女性） 13人

8月 消防職員10名採用 23人

9月 消防本部、本署新庁舎建設はじまる

昭和47年

3月 消防職員32名採用 55人

3月 消防本部、本署の新庁舎3月10日竣工移転

4月 消防職員1名採用 56人

8月 消防職員15名採用 71人

8月 消防署北・南支所新庁舎8月10日竣工移転

昭和51年

9月 屈折はしご付消防ポンプ自動車16台級購入

昭和53年

4月 消防業務の執行体制を強化するため署に課制を敷く

昭和56年

4月 消防職員1名採用 72人

昭和58年

4月 消防職員4名採用 76人

4月 救助隊発足 隊員（兼務） 10人

12月 認定工場竣工

昭和59年

9月 特別救助隊員増員（兼務） 14人

昭和60年

4月 特別救助隊員増員（兼務） 21人

昭和62年

4月 特別救助隊員増員（兼務） 22人

昭和63年

4月 特別救助隊員増員（兼務） 23人

平成 2 年

4 月 特別救助隊員増員（兼務） 2 5 人

平成 3 年

4 月 消防職員 2 名採用 7 8 人

4 月 特別救助隊員増員（兼務） 2 7 人

平成 4 年

4 月 消防職員 1 名採用 7 9 人

平成 5 年

4 月 消防職員 2 人採用 8 1 人

平成 6 年

4 月 消防職員 2 名採用 8 3 人

平成 8 年

4 月 消防職員 2 名採用 8 5 人

平成 10 年

3 月 3 0 名級はしご付消防ポンプ自動車購入配備

平成 1 1 年

3 月 畑野町松ヶ崎地区緊急情報システム竣工

4 月 消防職員 4 名採用

11 月 松ヶ崎地区緊急情報システムいこいの村佐渡増設工事竣工

平成 1 2 年

4 月 救助隊員増員（兼務） 3 0 人

平成 1 3 年

4 月 救助隊員 2 9 人

平成 1 5 年

3 月 高規格救急自動車購入配備

平成 1 6 年

2 月 佐渡消防事務組合消防団解団式

佐渡市中央消防団団結式

3 月 1 日 合併により、佐渡市消防本部・中央消防署となる

両津市消防本部

昭和 2 9 年

11 月 両津市消防本部・消防署発足 (11 月 3 日)

消防署員 1 1 名

昭和 3 0 年

1 月 合併に伴い、町村消防団を解き、両津市消防団と改める

昭和 3 1 年

7 月 消防庁舎完成 消防職員 2 名採用

消防職員 1 3 名

昭和 3 2 年

4 月 消防職員 1 名採用 1 4 人

昭和 3 5 年

消防職員 2 名採用 1 6 人

昭和 3 6 年

消防職員 4 名採用 2 0 人

昭和 3 7 年

消防職員 4 名採用 2 4 人

昭和 4 0 年

県から防災工作車譲り受け配備

昭和 4 4 年

化学消防車購入配備

市立両津病院から救急自動車に移管、救急業務開始

消防職員 1 名採用 2 5 人

昭和 4 6 年

消防職員 1 名採用 2 6 人

昭和 4 7 年

消防署員 2 名採用 2 8 人

昭和 4 8 年

消防署員 1 名採用 2 9 人

昭和 5 0 年

消防職員 1 名採用 3 0 人

昭和 6 0 年

4 月 消防庁舎・訓練等・防災資材倉庫完成 業務開始

化学消防ポンプ自動車（Ⅰ型・A 2 級）更新

昭和 6 1 年

2 4 級はしご付消防ポンプ自動車購入配備

昭和 6 2 年

救助工作車購入配備

平成 2 年

消防職員 3 名採用 3 3 人

平成 3 年

消防職員 4 名採用 3 7 人

平成 4 年

消防職員 1 名採用 3 8 人

平成 6 年

救助訓練用補助塔完成

平成 1 2 年

化学消防ポンプ自動車Ⅰ型更新

消防職員 1 名採用 3 9 人

平成 1 3 年

水難救助隊発足

消防職員条例定数 3 8 人

平成 1 6 年

3 月 1 日 合併により、佐渡市両津消防署となる

相川町消防本部

昭和 41 年

4 月	相川町消防本部設置	消防署員 9 名
11 月	高千出張所設置	消防署員 2 名
11 月	消防職員 4 名採用	13 人

昭和 42 年

4 月	相川町消防署設置	13 人
9 月	消防職員 1 名採用	14 人

昭和 43 年

1 月	消防職員 1 名採用	15 人
-----	------------	------

昭和 44 年

7 月	消防職員 1 名採用	16 人
9 月	消防職員 1 名採用	17 人

昭和 45 年

3 月	消防職員 1 名採用	18 人
-----	------------	------

昭和 46 年

6 月	相川町消防署、行政指定受ける
-----	----------------

昭和 47 年

1 月	救急業務開始	
6 月	消防職員 2 名採用	20 人

昭和 48 年

4 月	消防職員 2 名採用	22 人
	本署 17 名 出張所 5 名	

昭和 50 年

9 月	消防職員 1 名採用	23 人
	本署 17 名 出張所 6 名	

昭和 53 年

7 月	消防庁舎完成
-----	--------

昭和 58 年

4 月	行政職より 1 名公安職へ	24 人
10 月	高千出張所庁舎完成	

昭和 59 年

4月	消防職員1名採用	25人
昭和62年		
9月	行政職へ1名 消防職員3名採用	27人
平成2年		
1月	救助工作車購入配備	
4月	消防職員3名採用	30人
平成3年		
3月	消防緊急情報システム指令装置購入	
4月	消防職員3名採用	33人
	本部 21人 出張所 12人	
8月	高千出張所救急車配備、救急業務開始（8月8日）	
平成6年		
4月	消防職員3名採用	36人
	本部 22人 出張所	14人
平成7年		
4月	消防職員2名採用	38人
平成14年		
4月	消防職員1名採用	39人
平成16年		
3月1日	合併により、佐渡市相川消防署となる	

南佐渡消防本部

昭和 5 5 年

4 月 南佐渡消防事務組合発足 職員 1 1 人

9 月 消防庁舎完成 (本署・小木分遣所・赤泊分遣所)

消防職員 9 名採用 2 0 人

10 月 消防署業務開始 (小木・赤泊分遣所 1 名勤務)

昭和 5 6 年

4 月 消防職員 7 名採用 2 7 人

昭和 5 8 年

4 月 消防職員 3 名採用 3 0 人

昭和 5 9 年

4 月 消防職員 3 名採用 3 3 人

昭和 6 1 年

4 月 消防職員 4 名採用 3 7 人

4 月 救助隊発足 (兼務) 1 6 人

平成 4 年

4 月 消防職員 2 名採用 3 9 人

平成 5 年

6 月 水難救助隊発足

平成 6 年

4 月 1 本部・1 署・2 分遣所を 1 本部・1 署・1 救急隊詰所に統廃合する

4 月 消防職員 1 名採用 4 0 人

平成 8 年

4 月 消防職員 2 名採用 4 2 人

平成 1 1 年

12 月 赤泊救急隊詰所閉所、1 本部・1 署になる

平成 1 4 年

3 月 羽茂町消防団・小木町消防団・赤泊村消防団を解散

4 月 南佐渡消防団発足

平成 1 6 年

2 月 南佐渡消防事務組合解散

3 月 1 日 合併により、佐渡市南佐渡消防署となる